

医療体制確保に向けた助産師の活用について

1 趣旨

助産師がその持てる力を十分に発揮できるような体制を整備することが、医師の負担軽減や妊産婦の多様なニーズに対応するためにも有効であると考えているところであり、今後の方向性や方策等について関係者の意見を踏まえながら検討を進めたいもの。

【論点】

- ・ 助産師の職能をどのように活かしていくべきか。
- ・ その職能をさらに発揮してもらうための施策をどう進めるべきか。
- ・ 院内助産、助産師外来について、現状を踏まえどのように推進していくべきか。

2 現状

(1) 助産師数 【資料 3 の再掲】 (単位：人)

区 分	H26	H28	H30	R02
全国	33,956	35,774	36,911	37,940
岩手県	370	389	401	390
盛岡	184	193	196	200
岩手中部	46	53	61	55
胆江	12	12	10	10
両磐	33	32	32	29
気仙	23	23	24	22
釜石	15	17	16	16
宮古	21	23	25	24
久慈	14	13	14	13
二戸	22	23	23	21

(出典：衛生行政報告例(厚生労働省))

(2) 院内助産・助産師外来の状況

●助産師外来、院内助産における取扱件数(県医療政策室調)

医療機関名	助産師外来				院内助産			
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
岩手医科大学附属病院	445	390	700	720				
盛岡赤十字病院	107	48	42	16				
県立宮古病院	893	690	1,041	1,010	31	43	65	57
黒川産婦人科医院	未集計	231	107	79				
北上済生会病院	246	468	607	640				
県立中部病院	1,109	1,004	795	805				
県立磐井病院	633	633	259	185				
県立大船渡病院	191	141	179	179			1	6
県立釜石病院	869	702	663	676	145	105	91	78
県立二戸病院	187	20						
計	4,680	4,327	4,393	4,310	176	148	157	141

【参考】 助産師の養成・確保の状況

(1) 県保健医療計画上の位置付け

第4章 第2節 3 (7) 周産期医療の体制

- 妊産婦へのきめ細かな対応や医師の負担軽減につながる助産師外来や産前・産後ケア等、助産師への期待が高まっている一方、助産師の確保が困難な地域や施設もあることから、より一層助産師の確保・定着を図っていく必要があります。

(2) 助産師の養成確保の現状

- ア 県内における助産師養成機関は、県立大学看護学部（3年次から選択）定員15人、岩手医科大学看護学部（3年次から選択）定員10人となっている。
- イ 新卒助産師の就労状況（県医療政策室調査）
- 令和3年3月に助産師養成課程を卒業し、助産師として就職した16人のうち、県内病院へ就職した者は11人（68.8%）であった。（前年度県内就職者は13人（59.1%））

(3) 助産師の資質向上等の取組

- ア 岩手県委託実施事業 《岩手県看護職員資質向上研修事業 助産師研修会》
- 医師と助産師が連携した安全・安心なお産の場の確保を図るため、県内の医療機関等で就業している助産師が助産師外来や院内助産の推進に必要な知識・技術を習得し実践能力の向上を図ることを目的として、岩手県看護協会に委託し、研修を行っている。
- イ 岩手県看護協会における企画研修及び助産師職能研修《助産師対象研修》
- 助産師スキルアップ研修、WHC（ウィメンズヘルスケア）研修会